

施策番号	施 策 名	農業生産性の向上と経営基盤支援	基本目標	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり		
1-1-2			政策名	持続可能な農業の基盤整備と支援の強化		
	主 管 課	農林課	課長名	高橋 力	内 線	261
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図		結果				
環境に配慮し、効率的な農業生産を進めるとともに、本町農業・農畜産物の理解を促進し、農業の持続的発展による安定した地域経済の推進を図ります。		農業経営体 農業者で組織 する団体（生 産・加工・流 通）	・生産性の向上に向けた土づくり、適正な輪作、病害虫・有害鳥獣対策を進める ・先進的技術や施設整備による効率的な農業経営 ・地元産農畜産物のPRと販路拡大		安全・安心の農畜産物の供給 持続可能な農業経営による地域経済の拡大・推進				
成果指標		説明	単位	策定時□基準値	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標
①	農業産出額	農業生産額（農業再生協議会）	億円	363（R3）	363	383			363
②									
③									
④									
成果指標設定の考え方		①農業産出額を本施策の成果指標とし、過去最高の数値と同程度を目指すもの。 ※令和3年度から総額表示に変更							

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	389,249	574,587	487,980		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察									
①2024年度の成果評価 (前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した	想定される理由	・農業振興センターの営農指導などにより、適正輪作体系の推進、良質な堆肥施用による土づくり支援など、農業技術の向上、経営基盤の安定化が図られている。						
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった								
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した								
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠(理由)	・農業振興センターを中心に、関係機関が連携した営農指導の継続や機械・設備の導入などにより、天候など外部要因に大きく左右されない営農基盤の構築され、「芽室町農業DX構想」に基づく取り組みの推進により、目標達成は可能と考える。						
	<input type="checkbox"/> いが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能								
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい								
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括									
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	農業振興センター運営支援事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業						
	農業気象情報機器管理事業								
	農業ICT化推進事業								
③事務事業全体の振り返り(総括)	・農業生産性の向上、経営基盤の安定化を図るため、農業振興センターによる技術普及、省力化体系の推進や気象情報を活用した営農指導、経営分析を通じた農業経営管理の強化などの営農指導を継続した。 ・農業気象情報機器について、農業者にとってより有用な情報提供ができるよう管理運営した。 ・「芽室町農業DX構想」に基づく取り組み(申請のオンライン化、作付け情報の共有など)を推進した。								
	(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)								
担当課 評価	営農に係る技術的な指導に加え、経営分析による経営指導の拡大、機械・設備の導入などにより、外的要因(天候、災害など)に大きく影響されない強固な経営基盤が確立されてきたと考える。 申請のオンライン化は取り組めるものから実施しており、徐々に浸透していると考ええる。				A	B	C	D	E
				進捗結果			○		

A：実現した B：（後期実施計画策定時と比較して）大きく前進した C：（後期実施計画策定時と比較して）前進した
D：（後期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した E：（後期実施計画策定時と比較して）後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・ゲリラ豪雨など、予測できない天候に対応するため、よりきめ細かな気象情報の提供が必要不可欠となっている。 ・農家戸数の減少による1戸当たり耕作面積の増、労働力不足を解決するための一つの方策として、農業現場へのデジタル導入、オンラインによる申請など、DX推進に取り組む必要がある。 ・2021年度に供用を開始した哺育育成施設について、受入頭数の確保に向けた取り組み、町営牧場との一体的管理体制の構築を引き続き検討する必要がある。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

・農業振興センターの運営を継続し、農業者への営農指導・経営分析による経営基盤の安定化をさらに進める。 ・農業気象情報について、引き続き精度の高い情報提供を行う。 ・「芽室町農業DX構想」の推進に向け、「芽室町ICT農業検討会議」で議論しながら、構想に基づいた取り組み(地図情報の一元化・オンライン申請など)を実行する。 ・哺育育成施設と町営牧場の一体的管理や、町営牧場の一元化など、JAめむろと協議し、より効率的・効果的な手法を検討する。 ・有害鳥獣対策について継続し、鳥獣被害防止忌避装置等設置助成事業を行う。また、高齢化が進展する有害鳥獣被害防止対策の担い手確保に取り組む。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・スマート農業の芽室町の現状について知りたい。 ・有害鳥獣や異常気象対策に力を入れてほしい。 ・ハンターの確保をお願いしたい。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					